

? 調査概要

調査目的： 医師のブランド想起を元に、各プロモーションの有効性を定期的にトラッキング
 調査方法： インターネット調査
 調査対象： 全国の臨床医

有効回答： 約10,000s
 調査期間： 年4回（1・4・7・10月）
 調査主体： 株式会社アンテリオ

製品想起ランキング

※医師が製品5つを想起し、各製品の印象を評価。
 下記ランキングは印象が「ニュートラル以上(ポジティブ)」のみを分析対象とする。
 ※下記結果は診療科問わずTOTALで算出（診療科等による絞込みも可）

IMPACT
TRACKSOC
SHARE OF CHANNELS2019年1月
TOTAL想起数

- 1 ゾフルーザ
- 2 タケキャブ
- 3 グーフィス
- New 4 ルパフィン
- 5 サインバルタ
- 6 リクシアナ
- 7 リリカ
- 8 オプジーボ
- New 9 サムスカ
- New 10 キイトルーダ

New:
2018年10月
TOP10圏外

2019年1月
MR想起数

- 1 ゾフルーザ
- 2 ルパフィン
- 3 グーフィス
- 4 モビコール
- 5 タケキャブ
- 6 ベオーバ
- 7 リクシアナ
- 8 トラディアンズ
- 9 スージャヌ
- 10 パルモディア

2019年1月
ハンプロ想起数

- 1 ゾフルーザ
- 2 タケキャブ
- 3 リリカ
- 4 サインバルタ
- 5 オプジーボ
- 6 サムスカ
- 7 イナビル
- 8 リクシアナ
- 9 タミフル
- 10 ネキシウム

2018年10-12月
MR宣伝回数

- 1 タケキャブ
- 2 フォシーガ
- 3 スージャヌ
- 4 ゾフルーザ
- 5 グーフィス
- 6 ネキシウム
- 7 トラディアンズ
- 8 サインバルタ
- 9 ルパフィン
- 10 リクシアナ

SOC2019年1月 TOTAL想起数No.1はゾフルーザ

全チャンネル総合で最も想起された薬剤はゾフルーザであった。2015年7月から前回18年10月までタケキャブが全期間1位であったが、インフルエンザの流行時期も影響してゾフルーザが1位となっている。

また、花粉症関連ではルパフィンが上位にランクインとなった。

本調査結果・SOCに関するお問い合わせ ant-syndicated@anterio.co.jp

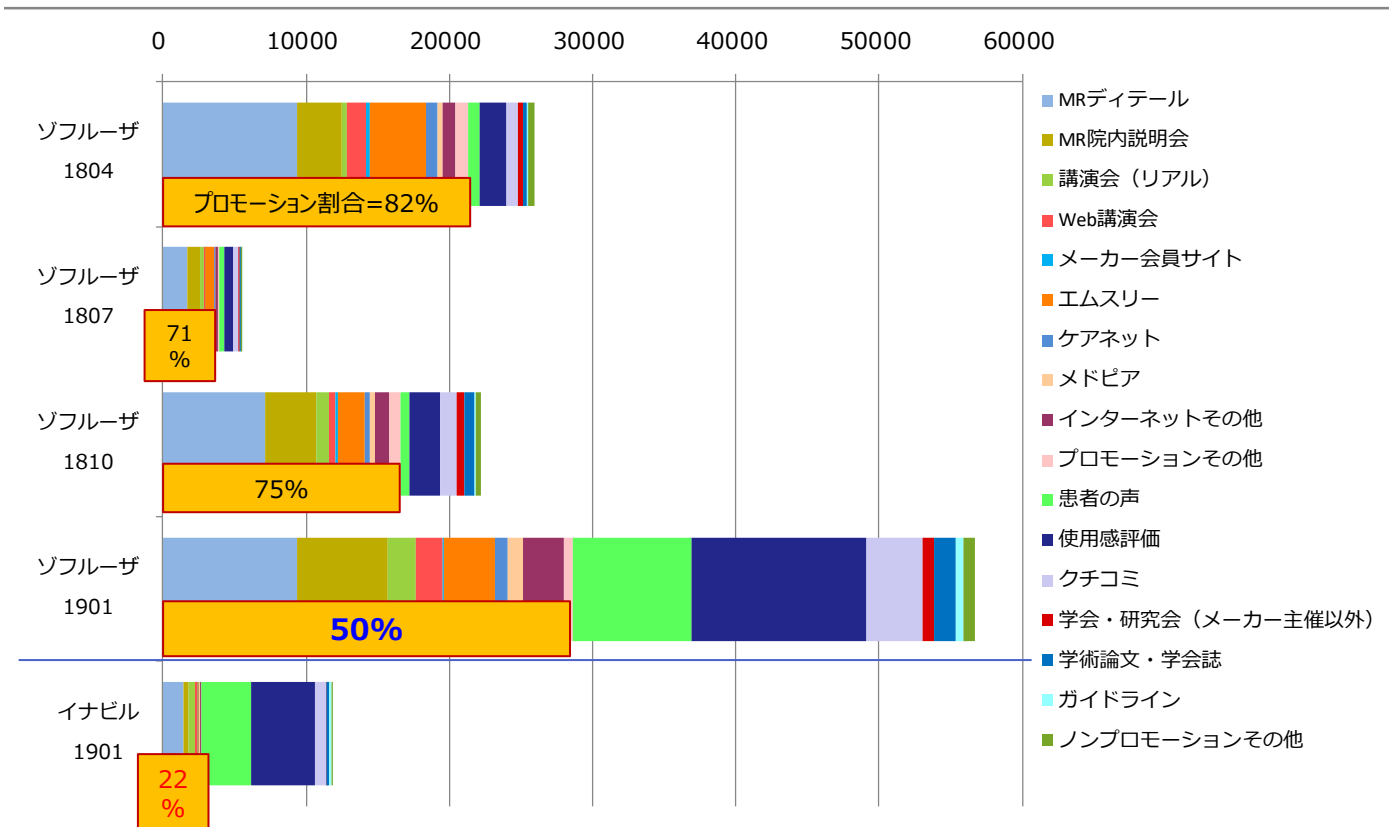
*記事本文・データ転載をご希望の際は、上記メールアドレスにご連絡ください

Copyright© ANTERIO Inc. All Rights Reserved.

SOC時系列チャンネル比較（件数）_2018/04～2019/01

◆推計データ

領域：全領域



出典：アンテリオ「SOC」

■「ゾフルーザ」 18年4月 2位→ 18年7月 54位→ 18年10月 3位→ 19年1月 1位

ゾフルーザのプロモーション割合は18年10月時点で75%であったが、今冬インフルエンザの流行により「使用感評価」「患者の声」が大きく伸び、19年1月時点でプロモーション割合は50%となっている。

なお、イナビルのプロモーション割合は22%であり、同インフルエンザ治療薬としてさらにゾフルーザのノンプロモーションの割合が増えていくことが想定される。

本調査結果・SOCに関するお問い合わせ ✉ ant-syndicated@anterio.co.jp

*記事本文・データ転載をご希望の際は、上記メールアドレスにご連絡ください